

# CZECHOSLOVAKIA MUSIC FESTIVAL

on The CELEBRATION of THE 100TH of  
THE ESTABLISHMENT of CZECHOSLOVAKIA

2018.10.28 12:30~19:30

チェコスロヴァキア建国 100 周年記念演奏会

主催：APA NPO 日本アマチュア演奏家協会 協力：合唱団 "わだち"  
後援：チェコ大使館、チェコセンター、日本チェコ友好協会、小金井市



## 出演者

合唱団 "わだち"  
(民謡を中心に原語で合唱)



1967 年から 50 年余り、日本を含む世界の合唱曲に取り組んできましたが、ご縁があつて、チェコ・スロヴァキアの合唱曲に力をいれるようになりました。きっかけのひとつは、ヤナー・チェクのカンタータ「アマルス」の本邦初演です。チェコへの招待旅行、チェコの合唱団を招聘しての合同ステージなど、1980 年代初めから始まった交流は、現在も続いています。来年 9 月の第 50 回定期演奏会に向けて、毎週土曜日、新宿区の戸山生涯学習会館で練習しています。新入団員は随時受け付けています。興味のある方はお気軽に見学においでください。

12:55 頃から演奏します

Jiri Rohan 氏  
(元チェコフィル Cb 奏者)



日本での生活がもう 10 年、日本茶が大好き。富士市に 1 年近く滞在して日本茶を学び、日本茶アドバイザーの資格も取得しました。4 歳からピアノ演奏を始め、コントラバスはブラハ音楽院に入学してすぐ始めました。チェコフィルハーモニー管弦楽団の最年少メンバーとなったのを皮切りに、チェコの著名な室内楽団や交響楽団で演奏してきました。演奏活動とともに、プロデューサーとしても活動しています。今日はちょっとした音楽談義と、コントラバス演奏をお届けします。チェコ・スロヴァキア音楽三昧の一日を、一緒に楽しみましょう。

13:20 頃から演奏します

NPO 日本アマチュア演奏家協会  
(中央線例会)



14:00 頃から演奏します

APA は、楽器の種類も習熟度もさまざまな、クラシック音楽のアマチュア演奏家の集まりで、現在、約 1000 名の会員が全国で活動しています。首都圏が約 600 名、関西圏約 300 名、残りは名古屋圏とその他です。会員は例会に参加してアンサンブルを楽しみます。例会にはそれぞれ特色があります。地域別、楽器別、習熟度別、曲目を決めて発表会に向けて練習する会、持ち寄り曲をその場で自由に演奏していく会、予め曲とメンバーを募って準備して臨む会など。ここ宮地楽器ホールをベースに活動する中央線例会は、アンサンブル初心者でも、経験者のサポートを得ながら気軽に楽しめる会を目指しています。どの例会もお試し参加ができます。あなたも愛用の楽器を手に、例会のどれかを訪ねてみませんか。

原語で合唱の魅力伝える

Choir "Wadachi" 1967~  
合唱団 "わだち"



私たちはチェコ・スロヴァキアの合唱曲に魅せられ、ほとんど毎年のように演奏・紹介し続けてまいりました。本日は私たちのレパートリーの中から、比較的親しみやすい名曲や楽しい民謡を演奏させていただきます。

● 本日の演奏曲

- ♪ Mikulecká dědina (ミクレツの村)
- ♪ Prší, prší (雨が降る、降る)
- ♪ Aká si mi krásna (ああ何と美しい)
- ♪ Slovácké verbunky (スロヴァーツコの徴兵の歌)
- ♪ Bude večer (夕闇が迫り)
- ♪ Napadly písně v duši mou (歌が私の心に降りてきた)
- ♪ ヴルタヴァの流れ



12:55 頃から演奏します

美しいミンカ、どんな女性？

Hummel 1778-1837  
ヨハン・ネポムク・フンメル



スロヴァキアの首都ブラチスラヴァ生まれの作曲家、ピアニスト。幼い時、指揮者・弦楽器奏者の父親とウィーンに移りました。モーツァルト、サリエリ、ハイドンに師事。ベートーヴェンとも親しかったことで知られています。

● 本日の演奏曲

フルート、チェロ、ピアノのための  
三重奏曲 Op.78

曲の正式タイトルは「美しいミンカの主題によるアダージョ、変奏曲とロンド」。「美しいミンカ」は当時流行したドイツ歌曲で、原曲はウクライナ民謡。旅立つ男性と残される女性を歌います。ベートーヴェンやウェーバーも同じテーマで変奏曲を作っています。

★

「アダージョの後、2 番目に聴こえてくるのがテーマです。どこか東欧を感じさせるこの民謡調のテーマが、次々に姿を変えていきます。その変化をどうぞお楽しみください」

14:00 頃から演奏します

ロマン派とチェコ音楽のコラボ

Fibich 1850-1900  
ズデニェク・フィビヒ



ドヴォルザークの 9 歳年下。東ボヘミア生まれ。重厚なドイツロマン派とチェコの民族音楽は相いれないスタイルとして語られるのが普通ですが、フィビヒはこの二つを見事に融合させました。ライブツィヒやバリで学んだ後 23 歳の時、ブラハに戻り、作曲したのが本日の曲。出世作となりました。

● 本日の演奏曲

ピアノ四重奏曲ホ短調 Op.11

第 1 楽章はリズムカルなモチーフと美しい旋律が絡み合ってロマンチック。第 2 楽章は美しいテーマと 8 つの変奏曲となり、第 3 楽章では情熱的なフレスコから華やかなコーダに。

★

「フィビヒの素晴らしい音楽を探求しつつ、女性 4 人で和気あいあい楽しく練習できました」

14:20 頃から演奏します

関西からスークを携えて

Suk 1874-1935  
ヨセフ・スーク



ブラハ音楽院で作曲をドヴォルザークに学び、チェコ 4 重奏団を結成。後に母校で教鞭を執り、マルティヌーラを指導。同姓同名の著名なヴァイオリニストは、このスークの孫にあたります。

● 本日の演奏曲

ピアノ四重奏曲第 1 番イ短調 Op.1

17 歳の時の作品で、スークの原点となるような作品。清新ではありますが、作曲書法はすでに完成されています。全体に大変力強さをもった曲で、美しい旋律も随所にみられます。アレグロ、アダージョ、アレグロの 3 楽章構成。特に第 2 楽章のテーマは魅力的。

★

「ある室内楽全集の CD で出会ったスークですが、このピアノ四重奏曲には一聴して心を捉えられました。APA の関西例会でこの曲の練習を始めていたところ、この音楽祭の告知があり、滅多にない機会と、4 人で馳せ参じました。こういう縁もあるものなのですね」

14:50 頃から演奏します

チェコ音楽と言えば、この人！

## Dvořák 1841-1904 アントニン・ドヴォルザーク



交響曲第9番「新世界より」の「家路」のテーマ、「遠き山に日は落ちて」であまりにも有名。北ボヘミア出身で、スメタナとともにボヘミア楽派と呼ばれ、ブラームスに才能を見い出されました。アメリカに渡ってからは、ネイティブアメリカンの音楽や黒人霊歌も作品に反映させました。

### ● 本日の演奏曲

**ピアノ3重奏曲第4番 小短調「ドゥムキー」 Op.90B.166**

渡米直前、ボヘミアやモラヴィアでのお別れコンサートで30回以上、ドヴォルザーク自身がピアノパートを弾いて評判になった曲。ドゥムキーは、ウクライナ民謡の哀歌「ドゥムカ」の複数形。この曲は6つのドゥムカで構成されていて、ゆったりした、もの悲しい旋律と、明るく踊るような旋律が交互に現れます。

### ★

「ドヴォルザーク自身もお気に入りだったこの曲の、一言一言を大切に、気持ちを込めて弾きます」

15:20 頃から演奏します

ジャズ、ダンス、ボヘミア民謡

## Martinů 1890-1959 ボフスラフ・マルティヌー



チェコで勉強した後、パリへ留学、その後ナチスから逃れてアメリカへ。「新古典スタイル」を土台に、ボヘミア民謡やダンス音楽、ジャズを融合するなど、様々な語法を用いた独創的な作法を追求しました。

### ● 本日の演奏曲

**ピアノ五重奏曲第1番 H.229**

第1楽章は不協和音や3連符、第2楽章は一転して讃美歌のような、弦とピアノの対話。第3楽章になると、変拍子が出てきてこれがとてもマルティヌーらしい。第4楽章、始まりはマーチ風のテーマ。中間部は民謡風。ピアノが変拍子を刻むので何とも妖しい雰囲気。そして輝かしいエンディングとなります。

### ★

「ストラヴィンスキーの『ペトルーシュカ』を思い浮かべてしまうのは気のせいでしょうか」

15:50 頃から演奏します

モーツァルトと同年！

## Vranický 1756-1808 パヴェル・ヴラニツキー



モラヴィアに生まれ、ウィーンで活躍したヴァイオリニスト、オルガニスト、指揮者、作曲家。同年のモーツァルトの親友、ペーターヴェンの交響曲第1番、ハイドンのオラトリオ「四季」の初演を指揮。彼のオペラ「オペロン（妖精の王）」は、モーツァルトの「魔笛」のヒントになりました。

### ● 本日の演奏曲

**フルート・オーボエと弦楽のための六重奏曲**

ヴィオラが2本という珍しい編成。深みのある中低音を支えに、ヴァイオリンが華麗に舞い、2本の管楽器がそれに応えます。シンプルで深みのあるフレーズの繰り返しを、どう劇的に盛り上げ、また可憐に歌うか、6人で工夫を重ねました。

### ★

「シンプルなフレーズの繰り返しを、どれだけ豊かに表現できるでしょうか？」

16:25 頃から演奏します

天にも昇る気持ち！

## Novák 1870-1949 ヴィーチェスラフ・ノヴァーク



明治3年生まれの子の作曲家、教育者。ブラハ音楽院でドヴォルザークに学びました。ドヴォルザーク、スメタナに続く世代。モラヴィアやスロヴァキアの民族音楽を収集し、研究しました。作風はスラヴ的なものや、近代フランス印象主義の技法を用いたものなど、いずれも堅固な構成が作品に統一感をもたらしています。

### ● 本日の演奏曲

**弦楽四重奏曲 第2番 二長調 作品35**

フーガとファンタジアの2楽章。上へ上へとスラヴ的なハーモニーが構築されていきます。ファンタジアの冒頭メロディはルーマニアのフラキア地方の民族音楽から採られています。中盤 *passionato* から *scherzo* へと切迫感が増し、そしてまた冒頭のテーマに戻って、第1楽章同様、天に昇るような澄んだ高音で終わります。

### ★

「チェコで始まる第1楽章冒頭の旋律は、形を変えながら全曲に亘って各楽器で繰り返されます。その変化・面白さを上手くお伝えしたいものです」

16:50 頃から演奏します

ボヘミア音楽の源流のひとつ

## Kalivoda 1801-1866 ヤン・ヴァーツラフ・カリヴォダ



シューベルトより4歳年下、ブラハ生まれ。ブラハ音楽院でヴァイオリンと作曲を学びました。長く忘れられていましたが、近年ようやく再評価される気運となりました。ドヴォルザークの祖父に当たる世代の作曲家です。

### ● 本日の演奏曲

**弦楽四重奏曲 第1番 小短調 作品61**

第1楽章 内に情熱を秘めた冒頭の主題がヴァイオリンに受け継がれます。第2楽章 牧歌的な静けさから次第に高まる感情はまさにロマン派的。スキップするようなリズム。第3楽章 スケルツォでは珍しい全員のピツィカート、そしてトリオではヴァイオリンが野良仕事風の歌を歌います。第4楽章 ボヘミアの収穫祭を祝うような踊りのリズムが楽しい作品です。

### ★

「リズムと旋律に感じられる、チェコ音楽の源流に耳を澄ませてください」

17:25 頃から演奏します

みずからの生涯を描く「音の絵画」

## Smetana 1824-1884 ベドルジハ・スメタナ



オーストリア・ハンガリー帝国の支配下であり、ドイツ音楽が支配的だったチェコ。そのチェコの民族的音楽が依然軽んじられていた時代に、国民楽派としての音楽を確立。一方、ワーグナー的なストーリーのある劇場スタイルは、民族楽派の主流からも距離をおくものでした。

### ● 本日の演奏曲

**弦楽四重奏曲 第1番 小短調「わが生涯より」**

失聴後に作曲され、自分では演奏を聴くことができませんでした。チェコの民族的旋律と、ワーグナー的ストーリーのある劇場スタイル。第3楽章では、愛する妻との甘い思い出も。民族的メロディとリズムの第4楽章、そのクライマックスでは、幻聴の苦しみも描かれますが、孤高の響きは、やがて安らかに終わっていきます。

### ★

「この夏チェコの音楽コースに参加し、指導を受けました。研鑽の成果をお聴きください」

17:50 頃から演奏します

「恋しい！」が、てんこ盛り！

## Janáček 1854-1928 レオシュ・ヤナーチェク



モラヴィア出身。モラヴィアの民謡を題材とした音楽づくりや、チェコ語の抑揚と旋律を融合する「発話旋律」などの試みで知られています。村上春樹の「1Q84」で繰り返し登場したのが、ヤナーチェクの管弦楽作品「シンフォニエッタ」でした。

### ● 本日の演奏曲

**弦楽四重奏曲 第2番 「内緒の手紙」**

74歳の時の作品なのに、人妻カミラへの恋愛感情がてんこ盛りの濃密な音楽。「内緒の手紙」とは、もちろん、カミラさんに送った手紙。700通もありました。ヴァイオリンの音が、カミラさんを象徴しています。メロディが形を変えて次々と切り替わり、恋する気持ちの高揚が、見事に表現されています。

### ★

「高いテクニックの壁を越えて、このヤナーチェクのバッションにどこまで迫れるか、アマチュアの大チャレンジです」

18:25 頃から演奏します

収容所で刻まれた希望の音楽

## Karel 1880-1945 ルドルフ・カレル

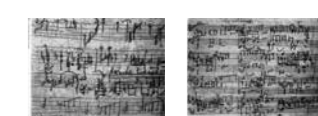


ドイツ・ナチスへのレジスタンスの容疑で、チェコ北部テレジーンにある収容所に投獄され、収容所内でチフスを発症。1945年3月、解放を待たず、獄中で死亡しました。

### ● 本日の演奏曲

**ノネット（管弦九重奏曲）**

収容所に投獄されたカレルが、獄中のトイレットペーパーに木片で書いた作品。これがそのトイレットペーパーの写真。



第1楽章、自由を奪われた衝撃から、嘆き、諦念へ。第2楽章、望郷の思い。クラリネットから始まる、切ないメロディの重なり。そして第3楽章、解放への夢想。

### ★

「死に直面した収容者たちの極限の心理状態を記した『夜と霧』の著者フランクルも一時期、同じ収容所に収容されていました」

19:00 頃から演奏します

# CZECHOSLOVAKIA MUSIC FESTIVAL

年表

## Chronology



## 小ホールで開催中 曲の合間に自由に入・出場できます 入場無料！

## Program

- 第1部**
- エイバ代表のご挨拶  
Greeting from APA (Amateur Music Players' Association, Japan)
- チェコ大使館のご挨拶  
Greeting from the Embassy of the Czech Republic
- 民謡を中心としたチェコとスロヴァキアの歌 (原語による)  
合唱団「わだち」 指揮：中村敏彦  
Czech & Slovakian Folk Songs by Choir "Wadachi"
- 音楽談義 (日本語) & 演奏  
Mr. Jiri Rohan 氏 (元チェコ・フィルハーモニー管弦楽団コントラバス奏者)  
Talk & Double Bass Solo by Mr. Jiri Rohan
- (休憩)
- 第2部**
- ファンメル：フルート、チェロ、ピアノのための三重奏曲 Op.78 J.N.Hummel : Flute Trio Op.78  
Pf 関 玲子、Fl 井口博史、Vc 佐原廣太郎
- フィビヒ：ピアノ四重奏曲 第11番 短調 Op.11 Z.Fibich : Piano Quartet in E Minor, Op. 11  
Pf 山田博子、Vn 小塚博子、Va 守屋朋子、Vc 宮本愛子
- スーク：ピアノ四重奏曲 第1番 短調 Op.1 J.Suk : Piano Quartet in A Minor, Op.1  
Pf 下地早苗、Vn 有馬善一、Va 原田久美子、Vc 村田幸平
- ドヴォルザーク：ピアノ三重奏曲 第4番「ドゥムキー」Op.90 A.Dvořák : Piano Trio No.4 Op.90 "Dumky"  
Pf 丸山かおり、Vn 宮本武郎、Vc 宮本愛子
- マルティヌー：ピアノ五重奏曲 第1番 H.229 B.Martinů : Piano Quintet No.1 H.299  
Pf 大橋明子、Vn1 藤井壮一郎、Vn2 田中弘志、Va 永田文子、Vc 永田雅夫
- (休憩)
- 第3部**
- グラニツキー：フルート、オーボエと弦楽四重奏のための六重奏曲 第6番 P.Vranický : Sextet No.6  
Vn 鈴木良子、Va1 新巳喜男、Va2 横倉 尚、Vc 藤波 忠、Fl 市川正子、Ob 重田淳二
- ノヴァーク：弦楽四重奏曲 第2番 二長調 Op.35 N.Novák : String Quartet No.2 in D Major, Op.35  
Vn1 吉田和道、Vn2 山下早代子、Va 園池由香子、Vc 松本伸雄
- カリヴォダ：弦楽四重奏曲 第1番 短調 Op.61 J.V.Kalivoda : String Quartet No.1 in E Minor, Op. 61  
Vn1 平井真希子、Vn2 山田文代、Va 林 英治、Vc 三木 雅
- スメタナ：弦楽四重奏曲 第1番 短調「わが生涯より」 B.Smetana : String Quartet No.1 "From My Life"  
Vn1 山下早代子、Vn2 徳永優子、Va 久保寺健子、Vc 日田正子
- ヤナーチェク：弦楽四重奏曲 第2番「内緒の手紙」 L.Janáček : String Quartet No.2 "Intimate Letters"  
Vn1 荒井 隆、Vn2 加藤美千子、Va 園池由香子、Vc 小野祐子
- カレル：ノネット (管弦九重奏曲) R.Karel : Nonet  
Vn 西本徳子、Va 吉田和道、Vc 松本伸雄、Cb 建部 欣司、Fl 馬淵普之、Cl 内海 豊  
Ob 馬場邦男、Fg 月川哲雄、Hr 山田淳市、Cd 高橋淳二